

質問者 公明党 吉井 透 議員

答 弁 者	質 問 項 目	関 係 部 課
<p>建設部長 たけだしげんいちろう 武田 準一郎</p>	<p>三 警備業等の労働条件について</p> <p>(一) 交通誘導警備業務について</p> <p>警備業法では、「人もしくは車両の雑踏する場所、または、これらの通行に危険のある場所において、負傷などの事故の発生を警戒し、防止する業務」を警備業務の一つとして位置づけております。</p> <p>さらには、このような業務を実施するために必要な、知識や能力の検定として、交通誘導警備業務検定が、国家資格として定められているところでもあります。</p> <p>このような、交通誘導警備業務は、人や車両の通行の安全の確保、また、工事現場における、円滑な交通の確保や事故の防止のため、重要な業務であるものと考えます。</p> <p>そこで、まず、知事は、交通誘導業務について、どのような認識をお持ちなのか。</p> <p>また、道の工事発注においては、どのように取り扱われているのか、併せて所見を伺います。</p>	<p>建設部 建設管理局 技術管理課</p>
<p>建設部長</p>	<p>(二) 交通誘導警備業務の労働条件について</p> <p>次に、交通誘導警備業務の労働条件について伺います。</p> <p>交通誘導警備員の労務単価は、他の職種と比較して、一般的に低く設定されていると言われており、また、本道は、全国平均と比較しても低い状況にあります。</p> <p>このような中、警備業団体からは、国や道などに対して、「元請け会社と警備会社の契約に際して、労務単価が警備料金として扱われ、交通誘導警備に必要な、安全教育を含めた研修費や社会保険料などの経費が、見積もられていない」などと、労働条件の改善を求める要望がなされているものと承知しております。</p> <p>そこで、知事は、これらの状況に対して、どのように対処されようとしているのか、所見を伺います。</p>	<p>建設部 建設管理局 建設情報課 技術管理課</p>

		答弁者	建設部長
質問者	公明党 吉井 透 議員	旭川市	
所 管	建設部建設管理局技術管理課		

三 警備業等の労働条件について
 (一) 交通誘導警備業務について

交通誘導警備業務は、人や車両の通行の安全の確保、また、工事現場における、円滑な交通の確保や事故の防止のため、重要な業務であるものと考えます。そこで、まず、知事は、交通誘導業務について、どのような認識をお持ちなのか。また、道の工事発注においては、どのように取り扱われているのか、併せて所見を伺います。

交通誘導についてであります

- 交通誘導は、
 工事現場内の事故発生の防止や、
 道路交通の安全と円滑を図り、

地域住民や工事関係者の安全を確保するものであり、
 道といたしましては、
大変重要な業務であると認識しているところ。

- そのため、
 市街地や公安委員会が定める路線など、
 交通量の多い箇所での工事発注においては、

土木工事共通仕様書において、
交通誘導警備業務の資格を有する交通誘導員の配置を義務付け、
工事現場における円滑な交通の確保や、
事故防止に努めているところ。

A・1人以上
 B～

		答弁者	建設部長
質問者	公明党 吉井 透 議員	旭川市	
所管	建設部建設管理局 建設情報課・技術管理課		

三 警備業等の労働条件について
 (二) 交通誘導警備業務の労働条件について

警備業団体からは、国や道などに対して、「元請け会社と警備会社の契約に際して、労務単価が警備料金として扱われ、交通誘導警備に必要な、安全教育を含めた研修費や社会保険料などの経費が、見積もられていない」などと、労働条件の改善を求める要望がなされているものと承知しております。そこで、知事は、これらの状況に対して、どのように対処されようとしているのか、所見を伺います。

労務単価などについてであります

○ 公共工事の積算に用いる労務単価については、
 毎年国が、都道府県などと共同して賃金の実態を調査し、
 ② 地域別に、普通作業員や交通誘導員などについて定めており、
 道においてもこの単価を用いているところ。

○ しかしながら、公共工事設計労務単価については、
 諸経費分が含まれていないことから、
 受注者が交通誘導警備業務について、

17500円 → 131000円

作業費

労務費 社会保険事務所

賃金の単価を高くして

契約をする場合には、
 交通誘導員の賃金等に加えて、
 必要な諸経費を適正に考慮するよう、
 建設業関係団体などに対して要請してきたところ。

○ 道といたしましては、引き続き、
 適切な交通誘導や警備により、
 工事現場における事故防止や円滑な交通の確保が図られるよう、
 その周知の徹底に努めてまいりたい。